

模範愛育班の指定

愛育班を普及し、その活動を充実させるため、次の条件により模範的な愛育班を「模範愛育班」として指定し、見学実習の場とします。

1. 愛育班組織が確立し、その活動が他の模範となるものであること。
2. 愛育班活動の見学実習地として、本会が行う研修会の研修生又は他市町村の愛育班関係者を受け入れることができること。

令和5年度は下記の愛育班を指定します

埼玉県加須市母子愛育連合会

「愛育班員の手記」入選作一覧

優秀作

県名	氏名	所属	タイトル
香川県	やまもと かおり 山本 香織	しょうどしまちょう 小豆島町 あいいくかい	人を繋いでくれる場所

佳作

県名	氏名	所属	タイトル
埼玉県	よこやま まゆみ 横山 真由美	さいたま市保健愛育会 みなみうらわ 南浦和地区	コロナ禍だからこそ再活動
山梨県	たかしま えり 高島 絵里	ほくとし 北杜市母子愛育会 たかね 高根愛育班	恩返し

審査員特別賞

県名	氏名	所属	タイトル
福島県	いとう みわ 伊藤 三和	みなみそうまし 南相馬市母子愛育会	優しさのおすそ分け

人を繋いでくれる場所

香川県 小豆島町あいいく会
山本 香織



「お元気ですか。」「いつも頑張ってるね。」きっとその一言で救われる人がいる、そう思っ
て私は明るく笑顔で声をかけ続けるのです。以前の私自身がその一言に救われた時のように。

主人の故郷である小豆島に戻って暮らし始め、3人目の出産をしたばかりのことです。島
外から嫁ぎ、慣れない土地で義理の両親と新しい生活をする中での気遣いや、友人知人が少
ない環境で思うようにならない子育てに、私はとても悩み疲れていました。そんな心細い時
に町の保健師さんから愛育会の活動を聞き、誰かと繋がりたい一心で入会したのです。

当時の小豆島町あいいく会は会員数の減少から存続が危ぶまれていました。しかし、私の
ように誰かと繋がる大切な居場所を必要とする人がいる限り、どうにか守らなくてはなりま
せん。再び会を盛り上げるべく、子育て真っ只中の若い母たちや先輩方、地域の力を借りて
この10年間奮闘してきました。

子育て世代を中心とする会員さんに向けた活動、時代に応じたSNS等を用いての運営によ
り、地域での子育て環境の活性化を願って活動を進めています。会員数の増加とともに行政
の子育て施策への提言もできるようになってきました。愛育会に入会し、救われたいと願っ
ていた私自身と重なるように、衰退していた会も随分元気を取り戻したと言えるでしょう。

しかし、生き方の多様化する現代の子育ては本当に大変です。新型コロナウイルスなど誰もが困惑
する状況や社会情勢、子育てだけに留まらない深い悩みも次々と出てくることでしょう。そ
んな時こそ一人で抱え込まずに誰かに甘え、周りに頼って自分を大切に生きていって欲しい。
「あなたには私がいます。私にはあなたがいます。」そう気持ちを伝え続けることが大切だ
と思うのです。だから私はこれからも小豆島の地で優しく温かい“あいいく”の輪を繋ぐ活動
を続けていきます。愛が届くようにと。

手記 佳作

コロナ禍だからこそ再活動

埼玉県 さいたま市保健愛育会南浦和地区

横山 真由美



私が約25年間活動してきたさいたま市南区で、唯一活動中だった所属地区愛育会がコロナ禍での活動自粛が一つのきっかけとなり一昨年度で解散となった。解散前の話し合い当時、私は老老介護が破綻した実家にて、終わりが不確かな介護長期帰省中で「ただただ勿体ない」としか言えない状態であった。

私が住む南区は若い世帯が多く、我が家のマンションだけで小学生以下が百人位と子どもも多い。市内で最も人口が多い区である。

亡父の介護終了後、埼玉に戻った昨年「妊娠中から生後5か月の現在まで誰とも会えなかった」という県内新米ママの声を聞き、コロナ禍自粛に変わりはないけれど『繋ぐ場の必要』を感じ、以前聞いた新宿区で子育て支援を行っている会の会長さんの「愛育会ってとても素晴らしい組織。東京都には無いから加入できないの」という言葉が思い出されて仕方なかった。折角さいたま市に愛育会があるのにといい、今年度から地元で知人達と行っていた子育て応援グループを、新規にさいたま市保健愛育会所属とさせていただいた。

活動では、保健センター事業協力でママ達の悩みや若い感覚での工夫解決方法を聞き、地区研修の場で共有することができた。悩みの種だった自主開催活動時、コロナ対策が実体験できるうえ、保健師さんにアドバイスも頂戴でき、安心しながら「おもちゃの広場」を開催し、会場の児童館長も驚かれるくらいステキな表情を多々拝見した。私達には有難いことだらけである。

また、仲間がいる有難みも実感している。県や市の研修会で学んだ事を地区研修会で共有できるだけでなく、運営方法についても他の会長さんに相談でき、経験に基づいた具体的なアドバイスを頂戴し、いつも心強い。

新米で微力な私達であるが、若い保護者が楽しいと思える子育て時間が増えるよう、皆様のご指導を賜りながら頑張っていきたい。

恩返し

山梨県 北杜市母子愛育会高根愛育班

高島 絵里



私が幼い頃、近くに住む大人はみな顔も名前も知っている人ばかりだった。朝は行っ
てらっしゃい。夕方にはおかえり。いつもだれかに声をかけられ、見守られていたように思う。

困ったことがあっても助けてくれる大人は親に限らず、当たり前近くの家を駆け込んだ。
いたずらをしたときも同じように、叱ってくれる人は大勢いた。

あれから20年以上が経ち、私は母になった。田舎で子育てしたいと強く思ったのは、安心
感のある幼少期の思い出があったからだと思う。それでも、越してきたばかりの慣れない土
地での子育ては孤独との戦いだった。初めての育児はわからないことだらけ、まだ話せない
我が子との毎日は不安と寂しさでいっぱいだった。そんなある日、愛育班の班員さんが絵本
を持って訪問してくれた。「おめでとう。お母さん、体調はいかが？不安なことはない？」母
と同じくらいの年代の班員さん。なんだかすごくほっとして、時間の許す限り話を聞いても
らったことを今でも覚えている。私たち家族はここに住んでいて、小さな赤ちゃんがいると
いうこと。初めての育児に不安を感じているということ。そのことを知っていてくれる人が
地域にいて、いつも気にかけてくれている。「いつでも話を聞くよ。大丈夫、本当によく頑
張っているね。」その言葉にどれほど救われたか。ひとりでは、ないんだ。

この地での生活や育児にも慣れてきた今、改めて地域とのつながりが子育てにおいていか
に大切かを感じている。顔を知っていてくれる。気にかけて声をかけてくれる。かつて私が
してもらったように、みんなで子どもを育てていけたら。愛育班員として訪問や声かけをす
る立場になった今、私には何ができるだろうかと考える。人との繋がりが薄れつつあるこの
時代において、「訪問」というのは少しハードルが高いのではないかな。拒絶されるのでは。そ
れでも日々忙しく走り回るお母さんや、この地で育っていく子ども達にとってほんの少しの
支えになればと願う。「お誕生日おめでとう。」から始まったご縁が、「こんなに大きくなっ
たんだね。」に繋がっていくその日まで。

手記 審査員特別賞

優しさのおすそ分け

福島県 南相馬市母子愛育会

伊藤 三和



お母さんたちが親子で参加するサロンや集まりの託児で、赤ちゃんをお預かりした時に見るかわいい寝顔、泣き顔、笑顔。

絵本の読み聞かせをした時、工作をしている時のキラキラした子どもたちの顔。夏休みに遊びの広場の見守り活動時に見る元気いっぱいの子どもの姿。

「大きなおいも掘れたよ！」秋の親子いもほり大会でのびっくり、うれしそうな笑顔。笑顔のおすそ分けをたくさんもらって、私もとても幸せな気持ちになりました。

「受講してみませんか？」と令和元年度の養成講座に声をかけられてから初めて知った『母子愛育会』。できることを、無理をしないで、楽しんで活動しましょうと言われ、なんとか継続して活動しております。

私を含む7期生以降、コロナ禍で講座は開講されておらず、ピッカピカの新人会員のままですが、8期生の新人さんが仲間として入会することを心待ちにしています。

活動で出会った子どもたちを見ながら、自分の子どもの小さい頃を思い出すこともたまにあります。東日本大震災後、子どもがまだ小さかったため、3年半ほど南相馬市を離れ、避難生活を経験しました。慣れるまで、幼稚園バスやお風呂で泣かれたこと、初めての土地で分からないことばかりで困ったこと、雪国で雪かきや雪道での車の運転が大変だったこと等も思い出されます。そしてお世話になった沢山の人の優しさのこともです。

南相馬市母子愛育会は震災後、親子に寄り添い、健康と笑顔づくりを応援するために設立されました。私も愛育会活動への参加を通して、避難中いただいた優しさのおすそ分けをしていけたらいいな、と思っています。